

# 前回委員会等における指導・助言事項とその対応方針

平成 29 年 7 月

沖縄防衛局

## 1 新たなルール作りについて

区 分	指摘 / 指導・助言事項	事業者の対応方針
① 運営要綱の改正	第9条の「委員会の運営に支障を来すような行為」は、より明確に規定した方が良い。	対応（修正）の結果を提示。 【資料1-2】

## 2 事後調査報告書（案）等について

区 分	指摘 / 指導・助言事項	事業者の対応方針
① サンゴの現況把握	本格的な海上工事に入る前に、サンゴやジュゴンの詳細調査を必ず実施していただきたい。特にサンゴについては、昨年の夏に大白化が起こっているのので、これまでと同じ精度で調査をして頂きたい。	平成 29 年 1 月から 2 月に実施した調査の結果を「事後調査報告書（案）概要版」として提示。 【資料2】
② サンゴの移植	サンゴの移植については、単に植え替えるだけではなく、陸上で種苗を増やすことや、護岸やケーソンに植えることも検討して頂きたい。	消波・被覆ブロック等に関する、環境保全措置について「生物の生息・生育環境を改善する護岸構造について」を提示。 【資料3-1】
③ ジュゴンの現況把握	ジュゴンについては3頭いるのかどうかということ、工事を再開するまでにきちんと見極めておく必要がある。	「航空機によるジュゴンの確認状況の推移について」を提示。 【資料3-2】
④ 土砂による水の濁り（海域）	SPSS 値の調査結果で、場所によって大きな差があるが、特に St. 8 の個所で非常に高い状況で、何かイベントがあったのか、あるいは試料をとる場所が違うと、この程度の差がでるものなのか。	<p>本年 1 月～3 月までに実施した、St. 8 における SPSS 値の調査結果を（資料2）に記載しているが、継続的に高い値を示しているところ。</p> <p>また、同様の地点の濁度調査においても水深 15 m 以深において高い濁度を示しており、それ以浅ではほとんどみられないことなどから、工事によるものではなく、地形、潮流及び河川からの流入等を要因とする底泥の移動等の影響によるものと考えている。</p> <p>また、St. 15 及び 16 地点は、St. 8 と同様に工事着手前より継続的に高い値を観測しており、同様の要因によるものと考えている。</p> <p>引き続き、モニタリングによる監視を行っていく考え。</p>

### 3 その他

区 分	指摘 / 指導・助言事項	事業者の対応方針
① ジュゴン監視・警戒システムの運用状況に係る定期的報告	ジュゴン監視・警戒システムは、ほかに例もなく、運用しながら問題の要素を改良していくことが前提となるので、節目毎に、どういう問題があるのかを報告していただきたい。	ジュゴン監視・警戒システムの運用状況等について、今回（第8回）委員会で運用状況等を提示。 【資料3-5】
② 環境保全対策状況の説明	オカヤドカリの移動についても、結果が整理でき次第、報告いただけることになっている。	オカヤドカリの移動に関して、「事後調査報告書（案）概要版」として移動の状況を提示。 【資料2】
③サンゴ類の白化	寒波襲来時に、サンゴ類の白化が起こる可能性があるので注視しておくこと。	平成29年1月から2月に実施した調査の結果を事後調査報告書（案）概要版として提示。 【資料2】 また、「サンゴ類の分布域について」において、過去の調査の結果を提示。 【資料3-3】